



撮影：野間勉

北海道生物多様性保全活動連携支援センター(HoBiCC)設立記念フォーラム  
 第5回 国際野生動物管理学術会議(IWMC)プレフォーラム  
**北海道の生物多様性保全と野生生物管理**  
 —多様な主体のネットワーク構築を目指して—

■日時／ 2014年6月14日(土)  
 開場 12:30 / 開演 13:00 ~ 15:30  
 ■場所／道新ホール  
 (〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西3丁目)

- 入場 無料(申込不要、定員700)
- 主催 HoBiCC((公財)北海道新聞野生生物基金、道総研環境科学研究センター(公財)北海道環境財団)／北海道新聞社／酪農学園大学
- 協賛 株式会社サッポロドラッグストア／北洋銀行「ほくく一基金」／I'm ECO2 プロジェクト(北海道東急ビルマネジメント(株))
- 後援 北海道／札幌市／日本哺乳類学会
- お問い合わせ HoBiCC事務局  
 (Tel:011-218-7811 / 北海道環境財団内)

今後の北海道における生物多様性保全・野生生物管理を前進させるためには、NPOや企業体などの多様な主体がネットワークを構築し、そのもとで将来を担う人材が、生物多様性保全に参画できる仕組みが必要とされています。本フォーラムでは、北海道の生物多様性保全活動の支援を目的に設立された北海道生物多様性保全活動連携支援センター(HoBiCC)、さらに来年7月に札幌で開催される国際野生動物管理学術会議を記念して、北海道の生物多様性保全と野生生物管理のあり方を考えるフォーラムを開催いたします。

プログラム

- 1 HoBiCCとは

---

- 2 講演
  - 1 NPOから  
 NPOとしての役割 ～札幌市のヒグマ対策を例に～  
 NPO法人EnVison環境保全事務所  
 早稲田 宏一 氏
  - 2 民間コンサルタントから  
 ついに大雪山高山帯にも侵入した  
 セイヨウオオマルハナバチ  
 ～セイヨウ情勢から侵入経路を推定する～  
 株式会社さっぽろ自然調査館  
 主任技師 丹羽 真一 氏
  - 3 事業者から  
 都市部における生物多様性保全への取り組み  
 ～いきものと共生する緑豊かな街づくりを目指して～  
 三菱地所株式会社 環境・CSR推進部  
 副長 竹内 和也 氏

---

- 3 まとめ  
 IWMC実行委員会 事務局長(酪農学園大学教授)  
 吉田 剛司 氏

同時開催

見て! 触って! 生き物教材「トランクキット」が大集合!

# 北海道生物多様性 保全活動連携支援センター (HoBiCC)とは

北海道の自然環境の保全活動をサポートする3つの団体、『(公財)北海道新聞野生生物基金』『道総研環境科学研究センター』及び『(公財)北海道環境財団』が連携し、北海道の豊かな生物多様性の保全に貢献することを目的に、平成26年4月4日に設立された組織です。

# 国際野生動物管理学会 (IWMC)とは……

「国際的に多様な文化と社会に一致した野生動物管理のモデル構築」をメインテーマに、世界の研究者が一堂に会し、変動する社会の中で野生動物と共存するための方法を議論する野生動物管理学分野で最大規模の国際会議です。

## 第5回会議 開催概要

会期:平成27年7月26日(日)～30日(木)(5日間)

会場:札幌コンベンションセンター

主催:アメリカ野生動物学会・日本哺乳類学会

参加予定者:50か国1,000～1,400人

## ●登壇者プロフィール●

NPO法人 EnVison  
環境保全事務所  
早稲田 宏一 氏

株式会社  
さっぽろ自然調査館  
主任技師  
丹羽 真一 氏

三菱地所株式会社  
環境・CSR推進部  
副長  
竹内 和也 氏

1974年生まれ。学生時代に苦小牧でヒグマの生態調査に関わる。ヒグマ・エゾシカを中心とした野生動物の調査研究や被害対策の業務に従事しながら、野生動物の生態を道民普及する活動にも取り組んでいる。

1968年生まれ。大雪山や知床などで野外調査に従事。花の友達であるマルハナバチに興味があり、どんな行動をしていたか、どんな花を訪れていたかなど、全道的に調査を行っている。

1992年三菱地所株式会社に入社。社会環境部(環境チーム)、マンション開発部門、ホテル運営部門等を経て、2009年より現職。同年よりJBIB(企業と生物多様性イニシアティブ)に参加、持続的土地利用WGに所属。

## 同時開催

### 見て!触って! 生き物教材 「トランクキット」が大集合!

近年、生き物をより感じ、知ってもらうための教材として、資料、標本、写真、解説パネルなどがまとめられた「トランクキット」が各所で作成されています。トランクキットは専門的な知識がなくても科学教育ができるよう工夫されており、野外教育や学校教育で効果的に活用できる教材です。当日は、「ヒグマ」「サケ」「海獣」「バイオミメティクス」「ウチダザリガニ」のトランクが勢ぞろいし、実演が行われます。(協力:CISEネットワーク、ウチダザリガニ防除ネットワーク、(株)アレフ)

